

用語集

対応する動画番号一覧

1. わたしたちの目指すよい医療のあり方～協働意思決定への誘い～
2. 診療ガイドラインを便利に使いこなそう～リソース・ツールの活用法～
3. 患者-医療者間における診療ガイドラインの活用
4. 診療ガイドライン活用の実際～若手医師を取り巻く場面から～
5. 診療ガイドライン作成の全体像

用語	内容	用語の関連動画
EBM (evidence-based medicine)	エビデンスに基づく医療のこと。最善の科学的根拠／実証報告を基に、医療者の技能および患者の価値観や希望を考え合わせて、よりよい医療を目指す医療の実践様式のこと。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.387	1
EtD フレームワーク (evidence to decisions framework)	推奨決定の手順。EU の 5 ヶ年プロジェクト、DECIDE (Developing and Evaluating Communication Strategies to Support Informed Decisions and Practice Based on Evidence) により開発された。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.387	2
GIN	Guideline International Network (GIN)。エビデンスに基づくガイドラインに関する組織・個人のネットワークで、世界最大のガイドライン・ライブラリを有している。 オープンアクセスのGINのライブラリには、GINメンバーによって発行または承認された3000以上のガイドラインと、メンバー以外の組織によるガイドラインへのリンクが含まれている。(2023年2月15日現在) https://g-i-n.net/	2
GRADE (The Grading of Recommendations Assessment, Development and Evaluation)	システマティックレビューや診療ガイドライン作成の際に、エビデンスの質評価や推奨度を明確なプロセスで決定するためのシステムとして国際的な任意団体が発表した方法。現在、WHO や英国 NICE などにおける診療ガイドライン開発で採用されているアプローチ。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.387	2
MAGIC	Making Grade the Irresistible Choice (MAGIC)。ノルウェーの非営利団体。デジタル化されたガイドラインを作成、発行、更新するための Web ベースのツールである MAGICapp を提供している。 https://www.magicEvidence.org/	2
NICE	National Institute for Health and Care Excellence (NICE)。英国国立医療技術評価機構。NICE は、エビデンスを厳格に評価し、医療・福	2

用語集

対応する動画番号一覧

1. わたしたちの目指すよい医療のあり方～協働意思決定への誘い～
2. 診療ガイドラインを便利に使いこなそう～リソース・ツールの活用法～
3. 患者-医療者間における診療ガイドラインの活用
4. 診療ガイドライン活用の実際～若手医師を取り巻く場面から～
5. 診療ガイドライン作成の全体像

	<p>社従事者向けのガイドラインを作成し、公表している。</p> <p>https://www.nice.org.uk/</p>	
PICO	<p>患者の臨床問題や疑問点を整理する枠組み。P は Patients (患者), Problem (問題), Population (対象者) のことであり、介入を受ける対象を示す。I は Interventions (介入), すなわち介入の選択肢のことである。C は Comparisons (比較対照), Controls (対照), Comparators (対照) のことであり、I と比較したい介入を示す。O は Outcomes (アウトカム), すなわち介入を行った結果として起こり得るアウトカム事象(転帰事象) のことである。これらに, Timing と Setting が追加されることもある (PICOTS)。</p> <p>Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.390</p>	5
PubMed	<p>米国国立医学図書館 (National Library of Medicine : NLM) が運営し公開している, 医学領域の文献データベース MEDLINE を中心とした生命科学, 生物医学文献検索エンジン。</p> <p>Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.391</p>	5
SIGN	<p>Scottish Intercollegiate Guidelines Network (SIGN)。現在のエビデンスに基づき、効果的な診療の推奨を含むガイドラインの開発と普及を通じて、スコットランドの患者のヘルスケアの質を向上させることを目的としている。</p> <p>https://www.sign.ac.uk/</p>	2
SoF 表 (summary of findings table)	<p>GRADE ワーキンググループ (GRADE Working Group) から提案された, システマティックレビューに対応した結果のまとめ表。</p> <p>Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.391</p>	2
アウトカム	<p>医療行為によって患者に生じる結果の全体のこと。死亡の回避などの効果(益)のみでなく、医療行為によって引き起こされる害(有害事象)も含まれる。</p> <p>Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.394「患者アウトカム」</p>	1, 3, 5
アウトカムの重要	<p>クリニカルクエスション (CQ) の作成時に, 複数のアウトカムの中</p>	1, 3, 5

用語集

対応する動画番号一覧

1. わたしたちの目指すよい医療のあり方～協働意思決定への誘い～
2. 診療ガイドラインを便利に使いこなそう～リソース・ツールの活用法～
3. 患者-医療者間における診療ガイドラインの活用
4. 診療ガイドライン活用の実際～若手医師を取り巻く場面から～
5. 診療ガイドライン作成の全体像

性	から介入を受ける患者にとって、どの程度重要と考えられるかを評価すること。「重大」、「重要」、「重要でない」の3つに分類する。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.392	
一次スクリーニング	システムティックレビューのエビデンスの収集過程で、データベースから検索された文献を絞り込むプロセス。原則としてシステムティックレビューチームの2名が独立して行う。一次スクリーニングでは、タイトル、アブストラクトからCQにあっていないもの、採用基準に合致しないものを除外する。2名の結果を照合し、二次スクリーニング用データセットを作成し、文献の本文を収集する。	5
益と害のバランス	益（介入によってもたらされると期待される望ましい効果）と、害（介入によってもたらされる有害事象）のバランスのこと。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.392	1, 3, 5
エビデンス総体	研究論文などのエビデンスを系統的な方法で収集し、採用されたエビデンスの全体を評価し統合したもの。介入とアウトカムの組み合わせごとにまとめられる。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.392	1, 3, 5
エビデンスの確実性	広義のエビデンスに対する評価のこと。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.393	2, 5
クオリティーインディケータ (quality indicator : QI)	医療の質を示す指標。QIの改善を促すことで医療の質の向上を図る。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.394	3
クリニカルクエスチョン (clinical question : CQ)	CQのこと。診療ガイドラインで取り上げることが決まった重要臨床課題（key clinical issues）に基づいて、疑問の構成要素を抽出したもの。患者アウトカムを左右する意思決定のポイントに設定される。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.395	1, 3, 5
システムティックレビュー	系統的レビューと同義。学術文献を系統的に検索・収集し、類似した研究を一定の基準で選択・評価した上で、明確で科学的な手法を用い	5

用語集

対応する動画番号一覧

1. わたしたちの目指すよい医療のあり方～協働意思決定への誘い～
2. 診療ガイドラインを便利に使いこなそう～リソース・ツールの活用法～
3. 患者-医療者間における診療ガイドラインの活用
4. 診療ガイドライン活用の実際～若手医師を取り巻く場面から～
5. 診療ガイドライン作成の全体像

(systematic review : SR)	てまとめる研究，またはその成果物のこと。定性的システマティックレビューでは，さまざまなバイアスを評価して，介入／要因曝露の効果への影響を推定する。また，統計学的手法を用いて効果指標が定量的に統合されるメタアナリシスが行われる。システマティックレビューは，メタアナリシスの実施を含まないものを示す場合もある。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.396	
システマティックレビューチーム	診療ガイドライン作成グループが作成したスコープに基づいて，システマティックレビューを担当するグループ。診療ガイドライン作成グループとは独立したチームとして，診療ガイドライン統括委員会により編成される。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.396	1, 5
重要臨床課題 (key clinical issues)	診療ガイドラインが取り上げる臨床上の課題のこと。クリニカルクエスチョン (CQ) の基になる。重要臨床課題は現時点の診療プロセスにおいて複数の選択肢が存在し，これらの益と害のバランスが不明瞭な臨床上の課題を取り上げる。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.397	5
診療ガイドライン (clinical practice guideline : CPG)	健康に関する重要な課題について，医療利用者と医療提供者の意思決定を支援するために，システマティックレビューによりエビデンス総体を評価し，益と害のバランスを勘案して，最適と考えられる推奨を提示する文書。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.398	1, 2, 3, 4, 5
診療ガイドライン作成グループ (guideline development group : GDG)	診療ガイドライン作成パネルともいう。診療ガイドラインの作成において，スコープを作成し，クリニカルクエスチョン (CQ) を決定し，システマティックレビューの結果を受けて推奨を作成し，診療ガイドライン草案を作成するグループ。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.398	5
診療ガイドライン統括委員会	診療ガイドラインの作成主体 (学会など) の下で，診療ガイドライン作成に関わる委員会の設置，予算の決定など，意思決定を担う委員会のこと。診療ガイドライン作成全体を統括する。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.398	5

用語集

対応する動画番号一覧

1. わたしたちの目指すよい医療のあり方～協働意思決定への誘い～
2. 診療ガイドラインを便利に使いこなそう～リソース・ツールの活用法～
3. 患者-医療者間における診療ガイドラインの活用
4. 診療ガイドライン活用の実際～若手医師を取り巻く場面から～
5. 診療ガイドライン作成の全体像

推奨	エビデンス， 益と害， 患者・市民の価値観・希望， 費用などの評価に基づき臨床における意思決定を支援する文章のこと。診断， 治療， 予防などのための選択肢について推奨が作成される。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.399	1, 2, 3, 4, 5
スコープ (scope)	診療ガイドラインの作成にあたり， 診療ガイドラインがカバーする内容に関する事項， システマティックレビューに関する事項， 推奨作成から最終調整， 公開に関する事項などを明確にするための文書。診療ガイドライン作成の企画書ともいえる文書。 Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.399	5
説明と同意	インフォームドコンセント。研究、予防接種プログラム、治験などへの参加の際に、目的、方法、手順、便益と起こりうる損害、必要な場合には結果の不確実性の程度につき情報を知らせた上で、対象者または責任ある代理者から得る自発的な同意。 財団法人日本公衆衛生協会. 疫学辞典第5版（日本疫学会訳） p167「インフォームドコンセント」から引用。	1
二次スクリーニング	システマティックレビューのエビデンスの収集過程で、一次スクリーニングで残った文献の全文を読み、採用基準に合致した論文を選ぶ。原則としてシステマティックレビューチームの2名が独立して行い、2名の結果を照合するが、意見が異なる場合は第三者の意見を取り入れ、採用論文を決定する。	5
バイアス	結果や推論の真実からの系統的なずれ。あるいはこのようなずれをもたらす過程。研究の概念やデザイン、あるいはデータの収集、分析、解釈、公表またはレビューにおける誤差であり、真実からは系統的に異なる結果や結論を導く可能性がある。システマティックレビューの過程においては、採用されたエビデンスについて、バイアスのリスクを評価する。選択バイアス、実行バイアス、検出バイアス、症例減少バイアス、早期試験中止バイアス、出版バイアスなどがある。 財団法人日本公衆衛生協会. 疫学辞典第5版（日本疫学会訳） p21「バイアス」から一部改変。	1, 5

用語集

対応する動画番号一覧

1. わたしたちの目指すよい医療のあり方～協働意思決定への誘い～
2. 診療ガイドラインを便利に使いこなそう～リソース・ツールの活用法～
3. 患者-医療者間における診療ガイドラインの活用
4. 診療ガイドライン活用の実際～若手医師を取り巻く場面から～
5. 診療ガイドライン作成の全体像

<p>メタアナリシス</p>	<p>メタ解析と同義。複数の研究結果について統計的方法を用いることで、効果指標の統合値と信頼区間を算出する方法。定量的システマティックレビューに用いられる。これらの研究結果を定量的に評価する際に実施する。結果はフォレストプロットとして表示する。出版（報告）バイアスの評価には、ファンネルプロットを表示して検討する。</p> <p>Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.401</p>	<p>5</p>
<p>利益相反 (conflict of interest : COI)</p>	<p>教育・研究に携わる専門家としての社会的責任と研究活動、専門性、産学連携の活動に伴い生じる利益などが衝突・相反する状態のこと。</p> <p>Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 ver. 3.0 重要用語集 p.402「利益相反(conflict of interest : COI)」より一部改変</p>	<p>1</p>